

# CASBEE®-建築(新築)

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年度版、CASBEE埼玉県2016年度版 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	西武ドームエリア改修計画 全体改修	階数	地上1F 地下2F
建設地	埼玉県所沢市大字上山口字隠久保	構造	S造
用途地域	指定無し	平均居住人員	368 人
地域区分	5地域	年間使用時間	900 時間/年(想定値)
建物用途	集会所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年3月 予定	評価の実施日	2019年9月24日
敷地面積	81,968 m <sup>2</sup>	作成者	鹿島建設 大越 英俊
建築面積	1,765 m <sup>2</sup>	確認日	2019年9月24日
延床面積	3,986 m <sup>2</sup>	確認者	鹿島建設 大越 英俊



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p><b>BEE = 0.9</b> ★★★★★</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>☆☆☆☆☆</p> <p>30%: ☆☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆☆☆ 100%: ☆☆☆☆☆ 100%超: ☆☆☆☆☆</p> <p>標準計算</p> <p>①参照値 100% ②建築物の取組み 97% ③上記+②以外の 97% ④上記+ 97%</p> <p>(kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p><b>Q 環境品質</b> Qのスコア= 3.0</p>		
<p><b>Q1 室内環境</b> Q1のスコア= 3.0</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b> Q2のスコア= 3.1</p>	<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b> Q3のスコア= 2.8</p>
<p><b>LR 環境負荷低減性</b> LRのスコア= 2.9</p>		
<p><b>LR1 エネルギー</b> LR1のスコア= 3.0</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b> LR2のスコア= 2.7</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b> LR3のスコア= 3.1</p>

3 設計上の配慮事項		
<p><b>総合</b></p> <p>埼玉県所沢市に計画された野球場の増築計画である。 CASBEE埼玉県2016年度版による評価である。</p>		<p><b>その他</b></p> <p>-</p>
<p><b>Q1 室内環境</b></p> <p>・換気量30m<sup>3</sup>/h人を確保し、良好な空気質環境に配慮している。</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b></p> <p>・耐用年数の長い内装材を採用し、建物の耐用性の向上に配慮している。 ・将来の用途変更の可能性等を考慮し、空間の形状・自由さのゆとりを計画している。</p>	<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b></p> <p>・既存の緑を残し、生物環境の保全に配慮している。</p>
<p><b>LR1 エネルギー</b></p> <p>・外皮の高断熱化による熱負荷抑制を図り、省エネルギー化に配慮している。</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b></p> <p>・QLデッキ、機械式継手等の採用があり、材料使用量の削減を図っている。 ・躯体と仕上材の分離が容易であり、解体時におけるリサイクルを促進させる対策がある。</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b></p> <p>-</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

**CASBEE-建築(新築)2016年版、CAS**

西武ドームエリア改修計画 全体改修工事 球幕・スタッド・ベンチ・バックネット増設

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、C

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)



スコアシート		実施設計段階							
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体			
		<b>Q 建築物の環境品質</b>							<b>3.0</b>
<b>Q1 室内環境</b>			0.40	-	-		<b>3.0</b>		
<b>1 音環境</b>		<b>3.0</b>	0.15	-	-		<b>3.0</b>		
1.1 室内騒音レベル		3.0	0.50	-	-				
1.2 遮音		3.0	0.50	-	-				
1 開口部遮音性能		3.0	1.00	-	-				
2 界壁遮音性能		-	-	-	-				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-				
1.3 吸音		-	-	-	-				
<b>2 温熱環境</b>		<b>3.0</b>	0.35	-	-		<b>3.0</b>		
2.1 室温制御		3.0	0.50	-	-				
1 室温		3.0	0.38	-	-				
2 外皮性能		3.0	0.25	-	-				
3 ソーン別制御性		3.0	0.38	-	-				
2.2 湿度制御		3.0	0.20	-	-				
2.3 空調方式		3.0	0.30	-	-				
<b>3 光・視環境</b>		<b>3.0</b>	0.25	-	-		<b>3.0</b>		
3.1 昼光利用		-	-	-	-				
1 昼光率		-	-	-	-				
2 方位別開口		-	-	-	-				
3 昼光利用設備		-	-	-	-				
3.2 グレア対策		-	-	-	-				
1 昼光制御		-	-	-	-				
3.3 照度		-	-	-	-				
3.4 照明制御		3.0	1.00	-	-				
<b>4 空気質環境</b>		<b>3.1</b>	0.25	-	-		<b>3.1</b>		
4.1 発生源対策		3.0	0.50	-	-				
1 化学汚染物質		3.0	1.00	-	-				
4.2 換気		3.5	0.30	-	-				
1 換気量	換気量30m <sup>3</sup> /h人を確保	4.0	0.50	-	-				
2 自然換気性能		-	-	-	-				
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.50	-	-				
4.3 運用管理		3.0	0.20	-	-				
1 CO <sub>2</sub> の監視		3.0	0.50	-	-				
2 喫煙の制御		3.0	0.50	-	-				
<b>Q2 サービス性能</b>		-	0.30	-	-		<b>3.1</b>		
<b>1 機能性</b>		<b>3.0</b>	0.40	-	-		<b>3.0</b>		
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	-	-				
1 広さ・収納性		-	-	-	-				
2 高度情報通信設備対応		3.0	1.00	-	-				
3 バリアフリー計画		3.0	0.30	-	-				
1.2 心理性・快適性		3.0	0.30	-	-				
1 広さ感・景観		-	-	-	-				
2 リフレッシュスペース		3.0	1.00	-	-				
3 内装計画		3.0	0.30	-	-				
1.3 維持管理		3.0	0.30	-	-				
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-				
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-				
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>2.8</b>	0.30	-	-		<b>2.8</b>		
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50	-	-				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	-	-				
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-				
2.2 部品・部材の耐用年数		3.0	0.30	-	-				
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20	-	-				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	耐用年数の長い内装仕上げ材を使用 床:ビニル床タイル(耐用年数:20年) 壁:EP-G(耐用年数:20年) 天井:せっこうボード(耐用年数:30年)	5.0	0.10	-	-				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-				
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-				
2.4 信頼性		2.4	0.20	-	-				
1 空調・換気設備		3.0	0.20	-	-				
2 給排水・衛生設備		1.0	0.20	-	-				
3 電気設備		3.0	0.20	-	-				
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-				
5 通信・情報設備		2.0	0.20	-	-				

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.6</b>	0.30	-	-	<b>3.6</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>4.0</b>	0.30	-	-	
1 階高のゆとり				-	-	-	
2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率:0.23		4.0	1.00	-	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>	床積載荷重4500N/m <sup>2</sup> 、床以外の割増なし		<b>4.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	0.30	-	-	<b>2.8</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>2.5</b>	0.30	-	-	<b>2.5</b>
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>2.9</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	0.40	-	-	<b>3.0</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>	外皮の高断熱化による熱負荷抑制 (BPI <sub>m</sub> =0.6)		<b>5.0</b>	0.20	-	-	<b>5.0</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>			<b>3.0</b>	0.10	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>	[BEI][BEI <sub>m</sub> ] = 0.96		<b>2.2</b>	0.50	-	-	<b>2.2</b>
<b>4 効率的運用</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価			<b>3.0</b>	1.00	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	
4.1 モニタリング				-	-	-	
4.2 運用管理体制				-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	0.30	-	-	<b>2.7</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>2.2</b>	0.20	-	-	<b>2.2</b>
1.1 節水			<b>1.0</b>	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>2.8</b>	0.60	-	-	<b>2.8</b>
2.1 材料使用量の削減	QLデッキ、機械式継手等の採用		4.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-		3.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-		1.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	LGS工法の採用により、躯体と仕上材の分離が容易である		4.0	0.22	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
3.1 有害物質を含まない材料の使用			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			<b>3.0</b>	0.70	-	-	
1 消火剤			-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)			3.0	0.50	-	-	
3 冷媒			3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	0.30	-	-	<b>3.1</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>	LCCO2排出量:97%		<b>3.1</b>	0.33	-	-	<b>3.1</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>3.3</b>	0.33	-	-	<b>3.3</b>
2.1 大気汚染防止	燃焼設備の設置なし		<b>5.0</b>	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			<b>2.5</b>	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			1.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.33	-	-	<b>3.0</b>
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	1.00	-	-	
2 振動			-	-	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制				-	-	-	
3 日照障害の抑制			3.0	0.30	-	-	
<b>3.3 光害の抑制</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			3.0	0.70	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	

# CASBEE埼玉県 重点項目シート

■使用評価ソフトバージョン **CASBEE埼玉県2016年版**

1 建物概要					
建物名称	西武ドームエリア改修計画 全体改修工事 球場・スタジアムビル(外高)増築	BEE	<b>0.9</b>	BEEランク	★★

2 重点項目の評価					
ライフサイクルCO2の削減のスコア		緑の保全・創出のスコア			
<b>3.1</b>	+	<b>3.0</b>	=	<b>6.1</b>	
重点項目の各スコアの合計点					
がんばろう 6.0未満 	良い 6.0以上 	非常によい 6.8以上 	すばらしい 8.0以上 		

3 重点項目についての環境配慮概要			
<b>(1) ライフサイクルCO2の削減</b>		スコア平均	<b>3.1</b>
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
LR3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア	<b>3.1</b>
燃焼設備の設置はなしとし、大気汚染抑制に配慮している。			
<b>(2) 緑の保全・創出</b>		スコア平均	<b>3.0</b>
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア	<b>3.0</b>
Q3 室外環境(敷地内)	3.2 敷地内温熱環境の向上	スコア	<b>3.0</b>
LR3 敷地外環境	2.2 温熱環境悪化の改善	スコア	<b>3.0</b>
・既存の緑を残し、生物環境の保全に配慮している。			

 :入力欄